

初級文法の実践共有

2013年度日本語学校教育研究大会
分科会Ⅱ「授業実践の共有を通じた学びあい・その方法」
2013年8月7日(水)

大阪YMCA学院日本語学科 亀田美保

発題の主旨

- 大阪YMCA学院準備教育課程（進学コース2年）の初級（6か月）における「文法」のとらえ方とその扱いを紹介する。
-

大阪YMCA学院準備教育課程・初級

- 特色：文部科学省認定 準備教育課程（進学コース）
 - 対象：日本の高等教育機関への進学希望者
特に、初等・中等教育が12年未満の国
と地域の進学希望者
 - 在籍数：47名
中国16名、香港10名、韓国7名、台湾3名、タイ2名、
ポルトガル2名、アメリカ、ネパール、フィリピン、ベトナム、マレーシア、ロシア、日本各1名
-

大阪YMCA学院準備教育課程・初級

- | | |
|-----------------|--------|
| □ 日本語 | 380時間 |
| 文系科目（地理・公民） または | 40時間 |
| 理系科目（物理・化学・生物） | |
| 英語 | 20時間 |
| HR | 20時間 |
| | 計460時間 |
- 6ヶ月 週25コマ 1コマ50分
-

大阪YMCA学院準備教育課程・初級

□ 目標(学生オリエンテーション用シラバスより)

1. 日本語の基本的な文型、語彙、文字を学び、「読む」「書く」「聞く」「話す」のどの面からも、日常生活に必要なとなる日本語力を身につける。
 2. 自国と日本との違い、多国籍の教室環境に慣れ、異文化に対する理解と関心が得られるようにする。
-

初級「文法」のとらえ方

運用力 日常生活に必要なとなる日本語力を身につける



4技能 「読む」「書く」「聞く」「話す」のどの面からも



文法力 日本語の基本的な文型、語彙、文字を学び

大阪YMCA学院準備教育課程・初級

□ 主教材:『日本語初歩』(国際交流基金)

初版:1981年3月

著者:鈴木忍、川瀬生郎

対象:日本語を初歩から学ぼうとする外国人学習者

目標:四技能の基礎を段階的に習得させ、その定着を図る。

シラバス:構造シラバス

学習時間:300時間(全34課)

語彙:約1,400語

漢字:新出380字、読み替え125字

付属教材:漢字練習帳1・2、文法練習帳

「定着」を図るために

□ 4技能の統合

⇒4技能を強化するための副教材の整備

□ ディスコースへのアクセス

⇒文単位ではなく、文脈の中での学習項目
の使用の確認

大阪YMCA学院準備教育課程・初級

□ 副教材(オリジナル):

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 単語帳(英・中・韓) | 7. ききとり⑥ |
| 2. 文法ノート① | 8. 練習 |
| 3. 文完成Ⅰ② | 9. 漢字の宿題 |
| 4. 文完成Ⅱ④ | 10. 漢字クイズ |
| 5. 問いと答え③ | 11. ディクテーション原稿 |
| 6. 読み物⑤ | 12. 発音 |
| | 13. 会話＊ |
-

1課分の授業例

* 青字は副教材、黒字は教科書練習項目

	1時間目	2・3時間目	4・5時間目	HW
導入	DIC 漢Q 練習 (HWチェック)	第16課 文法 I & II 文完成 I	文の型 本文 問いと答え	漢字 問いと答え
練習・応用	DIC 漢Q 発音	おきかえ いいかえ 文完成 II	(本文)復習 まるうめ ききとり 読み物	読み物 練習
導入	DIC 漢Q 練習 (HWチェック)	第17課 文法 I & II 文完成 I	文の型 本文 問いと答え	漢字 問いと答え

* 学期に4回、400字程度の作文を書く。

1 課分の授業例 (第16課)

□ 導入

1. 口頭で文法導入 (文法ノート)
 2. 文構造の確認 (文完成 I)
 3. 文例・新出語の確認 (文の型)
 4. ダイアログの聴解・読解 (本文)
 5. 口頭による内容確認 (問いと答え)
 6. 筆記による内容確認 (問いと答え宿題)
 7. 新出漢字の導入 (漢字の宿題)
-

1 課分の授業例 (第16課)

□ 練習:

1. ディクテーション(DIC)
 2. 漢字クイズ(漢Q)
 3. パターンプラクティス(おきかえ・いいかえ)
 4. 文構造の確認および短文作成(文完成Ⅱ)
 5. 助詞の確認(まるうめ)
 6. 学習項目のまとめ(練習)
-

1 課分の授業例 (第16課)

□ 応用:

1. 1 課の復習 (本文およびアクティビティー)

* ロールプレイ、インタビューなど

2. 聴解練習 (ききとり)

3. 読解練習 (読み物)

果たして「文法」は定着したか

□ した！

↑ 文法テスト平均：韓国90%、中国80%
非漢字圏70%

↑ 学生の声：

- ・初級のときは宿題しかしなかった。
- ・スケジュール通りに勉強しただけ。など

果たして「文法」の定着は4技能を支えたか

- 「読む」 ◎ 600～800程度の文に慣れ、
中級への以降も可。
 - 「書く」 ○ 400～600字程度の作文が可。
 - 「聞く」 △
 - 「話す」 △ アルバイトなど授業外で日本語を
使う機会のある人は○
-

果たして「4技能」は運用力に結びついたか

□ ???

「わたし」

→「ぼく」「わたくし」に言い換えられない。

→「わたし」の連呼になり、「あのう」「ええっと」は言えない。

「運用」「コミュニケーション」のための指導が必要ではないか？
